
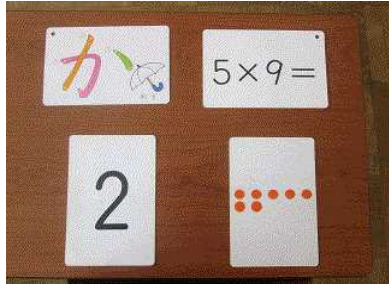


## 教材・支援機器活用実践事例

### 【注意力に困難さがある児童のための指導】

	実施年度	平成29年度
授業について	教科名等	自立活動 他
	単元・題材名	ハイ、注目！
	授業における教師のねらい	○対象となる人やものに注意を向け、気を付けて情報を理解しようとする習慣を身に付けさせる。
	授業における子どもの目標	○対象となる人やものに注意を向ける習慣を身に付ける。 ○集中力を高める。 ○ルールを守って楽しく活動する。
子どもについて	学校・学級・学年	小学校 特別支援学級 全学年
	対象の障がい	知的障がい
	授業の形態	集団
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	○前に立つ先生に注目することが苦手だったり、ADHDの特性から話を聞く対象や相手に注意を向けていてもそれを持続させたりすることが困難である。 ○同じ繰り返しの活動は飽きやすいため、活動の中に変化を持たせることが必要である。
教材 ・支援機器活用	使用した支援機器 ・教材の名称	<p>・6つある窓の中からランダムでイラストカードを一瞬のぞかせ、描かれているものを当てるゲーム。</p>   <p>・カードを変えることで、他の教科にも応用できる。</p>
	活用のねらい	○カードを出す際に「ハイ、注目！」と声をかけることで、普段の生活でも場に合わせて反応し、注目する習慣を身に付ける。 ○絵がわかったらその場で言わずに挙手をして答える、などのルールを作り、ルールを守ろうとする態度を育む。
授業における支援・教材の配慮	<p>○注目が苦手な児童には、適宜個別に声をかけながら活動を行う。</p> <p>○あえて注目ができていない児童がいるときにカードを出し、「注目していないと分からなくなってしまう」という経験をもたせる。</p> <p>○慣れてきたら2枚同時に出すなど、変化をもたせることで飽きることなく活動に取り組むことができるようにする。</p>	
子どもの変容や評価	<p>○「注目する」という行動に慣れることについて、ゲーム感覚で楽しみながらできるため効果的であった。</p> <p>○あくまで授業の中の活動であるため、習慣化のためにはこれをきっかけとして、引き続き生活の中で注目することを意識づける必要がある。</p>	